

# 2020年度 事業計画書

## I 事業概要

- |                      |      |
|----------------------|------|
| 1. 教育研究事業            |      |
| 大学                   | P. 2 |
| 大学院                  | P.11 |
| 附属中学校・高等学校           | P.11 |
| 附属小学校                | P.13 |
| 附属幼稚園                | P.16 |
| 2. 施設の整備             | P.19 |
| 3. 財政基盤の充実と経営管理体制の強化 | P.19 |

## II 予算概要 P.20

1. 事業活動収支予算
2. 資金収支予算

## I 事業概要

2020年度の事業計画について教育研究事業、施設設備、財政基盤の強化、成果を上げる経営管理体制の整備といった観点から、各部門別に説明します。

### 1. 教育研究事業

#### 大学

##### 【はじめに】

大学では、2019年に本学の基本的理念である「自由・自主・自律の精神を以って良識ある音楽人を育成し、日本及び世界の音楽文化の発展に寄与する」ことをビジョンに掲げ、2020年から2023年までの中期計画を策定しました。策定にあたっては、改めて大学の持つリソースを確認し、「くにおん」の価値として5つの柱に明確化しました。

- ① 伝統と挑戦  
伝統的な音楽教育を基盤に、新たな世界に挑戦し、世界を代表する音楽教育機関
- ② 音楽文化人  
新たな価値のイノベーターとして音楽文化の進化発展をリードし、社会に貢献する人材の育成
- ③ 個の尊重とアンサンブル  
個を尊重し、協創の教育文化の醸成
- ④ 教育環境  
学生の学びを徹底支援する教育環境
- ⑤ 一貫教育  
音楽を中心とする一貫教育を通じた精神性豊かな人間形成

ビジョンを反映するこの5つの柱のもと策定した中期計画で定めた各項目の最終的な目標達成に向け、2020年度に具体的に取り組み、実施する内容が事業計画となります。

中央教育審議会が2018年に提言した「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」では、「全ての学修者が自らの可能性の伸長を実感できる教育」「学び続けることこそが価値である社会」を目指すべき姿としています。大学に対する社会の期待は、これからも多様化し複雑化していくことが考えられます。

本大学では、音楽大学の特性である、個人レッスンなどに代表される個人個人にアプローチする教育、アンサンブルなどに代表される仲間と一緒にハーモニーを創り上げる教育を中心として、多様な個性を育成しています。多くの卒業生が、卒業後も音楽を学び続け、音楽を通して自らの様々な可能性を見出しています。

2020年度の事業計画は、社会や学生の資質の変化に対応し、また、ブランド力向上と広報による情報発信の取り組みによって、音楽人を志す学生の確保を図り、知財の活用や積極的な募金活動を行うことによって安定的な収入確保を推進していくものです。

## 【重点施策】

2020年度の事業計画では、目指すべきビジョンに基づき、次の3つを中期計画の重点施策としました。

- ①「魅力ある学園に向けた改革施策の推進」  
本学の目指すビジョンに基づき、教育プログラム改革、教育環境プログラム改革、教育環境整備、学生支援充実などを推進する
- ②「積極的な広報活動による情報発信とブランド力の強化」  
改革施策推進を通じ、学園全体の魅力を高めブランド力を強化する
- ③「財政基盤の安定化」  
①と②の取り組みの結果として、大学及び附属校の進学者を増やし、財政基盤の安定化を図る

上記3つの視点に立って、11の基本計画で構成したのが2020年度事業計画です。

- 1) 大学の教育研究活動
- 2) 演奏芸術の振興
- 3) 社会貢献・地域連携
- 4) 「くにおんアカデミー」の開設
- 5) グローバル教育センターの設置
- 6) 管理・運営
- 7) 施設環境整備
- 8) ICT環境整備
- 9) 新たな財源の確保
- 10) 広報活動
- 11) 学校間連携

以下、この11の基本計画の詳細について説明します。

### 1) 大学の教育研究活動

「くにおん」の価値を体現する教育・研究の水準を向上させるための改革に取り組むとともに、本学の有する様々なリソースを再確認し、利活用を積極的に行っていきます。

#### 《教育プログラム改革》

- ①カリキュラムの見直し（大学および大学院）  
魅力あるプログラムの設置、カリキュラムのスリム化、多様なニーズに対応したカリキュラムの構築、既存コースの検証
- ②クォーター制導入にあたっての具体的検討  
グローバル化に対応（インターン、海外留学など）

#### 《学生支援の強化》

- ①卒業生アンケートを活用したキャリア支援の強化、卒業生の活躍やライフスタイルの発信
- ②奨学金制度の見直し・充実化

上記①②の実施を通し、将来的に卒業生のネットワーク構築とそのプラットフォーム化や、アンケートなどを活用した教育改善への反映も視野に入れていきます。

#### 《入試制度改革》

- ①学部入試の多様化
- ②大学院修士課程入試の見直し

#### 《研究活動改革》

- ①研究業績の把握と可視化
- ②科学研究費の獲得推進
- ③図書館・楽器学資料館の資源活用

#### 《音楽と伝統のイノベーション》

音楽の伝承とともに新たな価値のイノベーションを、他大学などとの連携も含め、推進します。

- ①音楽の伝承  
楽器学資料館の楽器を活用した催事・「聴き伝わるもの、聴き伝えるもの」（本学シリーズ演奏会）
- ②他大学などとの協働によるイノベーション

## 2) 演奏芸術の振興

演奏活動内容の戦略的展開に合わせた名称の変更を始め、企業連携・募金活動を積極的に推進していき、演奏芸術振興のハブ大学とすべく組織化を図ることで恒常的な体制へと段階的に進めていきます。下記3つのステップで進める予定です。

### ① 《活動の多様化に伴う名称変更：「演奏センター」から「演奏芸術センター」へ》

“演奏活動”リソースを活用し、対外的な価値を確立し、ブランド力向上につなげます。社会貢献を目的とした芸術文化振興の観点から戦略的な演奏活動を展開するため、活動内容に合わせ「演奏センター」から「演奏芸術センター」に名称を変更します。

### ② 《企業連携・募金活動》

現行の演奏活動を継続しながらも、将来的な拡充を見据え、企業との連携や寄付金など募金活動を積極的に行い、安定的な活動資金を維持するよう努めていきます。支援いただいた企業や寄付者に対し、その成果としてより充実した音楽芸術を提供することだけでなく、ご招待枠の設定や芸術イベントの提携なども推進していきます。更に、広報支援による集客、チケット販売などの新たな工夫も同時に行っていきます。こうした取り組みにより、音楽大学を目指す高校生、あるいは音楽大学に興味を持つ高校生を増やし、本学をより発展させ、支援していただいた方々に還元します。

### ③ 《新たな学外演奏活動の推進》

これまで学外の演奏活動を積極的に行ってきましたが、①、②を進めることで、演奏活動基盤を盤石なものとし、学外での演奏活動を拡大、本学の本分とする音楽芸術、演奏

芸術を、より多くの人々に届けるようにしていきます。将来的にはオペラやミュージカル、音楽フェスティバルのような規模の大きな公演も行える基盤を整えていく予定です。またこうした一連の活動にあたっては、本学在學生だけでなく、本学卒業生の参加も視野に入れ、音楽を通じ、本学が社会貢献・地域貢献していくものとします。社会貢献・地域貢献に特化した施策は次項になります。

→募金活動については、「9) 新たな財源の確保」に関連記載があります。

### 3) 社会貢献・地域連携

#### 《演奏会を中心とした芸術活動による貢献》

本学は、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、大学院を備え、一貫した音楽教育を学べる教育機関です。また、国内随一の音楽資料を備えた図書館のほか、ユニークな研究も行っている楽器学資料館など、人・物ともに豊富な音楽資源を持っています。これらを最大限に生かし、「開かれた“くにおん”」として、地域連携を通じた社会貢献を進めていきます。本学は、このような活動によってSDGsに寄与することも視野に入れていきます。SDGsの掲げる17の項目のうち、音楽芸術によって「質の高い教育をみんなに」、そして音楽による精神的な癒しの側面から「すべての人に健康と福祉を」、さらに世界共通言語である音楽を通じた「人や国の不平等をなくそう」といった点にも目を向けながら進めていきたいと考えています。

具体的な活動は以下となります。

- ①大学、附属校、関連研究機関などの企画・運営の既存イベントの拡大および充実
- ②地域や企業等と連携した演奏会やフェスティバルの実施
- ③音楽活動による社会貢献の実施を通じ学生の成長を促す
- ④音楽、芸術に関する情報の発信
- ⑤社会・地域の音楽芸術の醸成

#### 《近隣の学校への演奏指導》

現在でも近隣の小中学校などでの演奏指導を行っていますが、今後はより組織的な活動として構築していきます。様々な年代、様々な接し方で、できるだけ音楽に親しんでいただく機会を提供することで社会貢献活動として浸透していくよう進めていきます。多様な生徒に音楽を教えるということは、本学の教員や学生にとっても大きな学びの場となります。また、指導した生徒の中から本学への進学者を増やすことで、地域とのつながりをより強いものとし、一層の社会還元ができる体制を構築していきます。

### 4) 「くにおんアカデミー」の充実

#### 《ジュニア育成プログラムの開始》

本学は、音楽大学として日本で初めて幼稚園教諭養成課程を附設し、音楽の早期教育に力を入れてきた歴史があります。幼稚園から大学までの一貫教育も、幼児教育の重要性を認識していた創立者たちの理念によるものです。こうした長い歴史の中で培われた本学の音楽教育を、改めて今の時代に合わせた形で実現していくのが、ジュニア育成を目的としたジュニア育成プログラムです。

今年度は、このジュニア育成プログラムの来年度開始を目指し、プログラム内容や利用施設、施設のロケーションなどの工夫も視野に多角的に検討し、具体化していきます。

「くにおんアカデミー」では、将来的に生涯学習・社会人コースを開設することも検討しています。本学だけでなく音楽大学を卒業し、音楽関連で仕事をしている全ての人々の学び直しの場として現在もいくつかの講座などを開催しておりますが、更に内容を充実するとともに、一般の方々を対象とした音楽を幅広く学べる生涯教育の場を提供することも検討していきます。

#### 5) グローバル教育センターの設置

これまで教務課と学生支援課の2つの窓口で行っていた留学生や在学生の学習・生活・留学相談など、ワンストップでできる場として「グローバル教育センター」を設置し、学生の利便性の向上を図ります。留学に関する具体的な手続きだけでなく、個々人の抱える学習面、生活面の悩みにも対応します。また、グローバル社会にあって、外国人、日本人に関わらず多様な個性の交流の機会として留学生と在校生が集う場作りに努めていきます。具体的な施策は次の通りです。

##### 《留学サポートの強化》

###### ①留学準備支援

「グローバル教育センター」の設置により、1つの窓口で留学に関する全てが完了します。

###### ②留学関係資料の整備・提供

一般的な留学関係資料のほか、それぞれの学生のニーズに応じた資料や時代を反映した必要資料や情報を提供します。

###### ③海外協定校との交流の活発化

現在協定を結んでいる13の海外協定校の特色や利点などを改めて確認し、本学との更なる発展的関係を構築するため、これまで以上に交流の機会を設け、活発化します。また、将来的に短期留学ができる仕組みも考慮に入れ、活動を行います。

##### 《留学生支援・学習支援》

留学生について、日本語学習支援や生活支援だけでなく、音楽基礎科目など音楽大学で基本となる科目についても学習支援を行い、学生生活をスムーズに過ごせるよう支援します。また在學生について、留学に必要な語学学習相談や学習支援のほか、留学生との会話機会を設けることで留学の心構えなど支援します。さらに留学生、在學生に関わらず、学習上あるいは就職活動上、必ず必要となるIT活用についても支援していきます。

##### 《国際交流イベント・機会の提供》

留学生支援、在學生の留学支援、学習支援、国際交流の要素を含め学内におけるイベントや機会を提供していきます。

#### 6) 管理・運営（事務局業務運営の改善と効率化）

2000年代に始まった大学改革は、認証評価制度や大学教育の質保証など様々な方針が打ち出され、大学はそうした要請に対応すべく、事務作業が膨らみ、特に事務局は以前に増して多忙となっているのが現状です。しかし、2018年7月に働き方改革関連法が公布さ

れ、2019年4月には長時間労働の是正、多様で柔軟な働き方の実現等に関する法律が施行されました。こうした中、本学では事務局の業務運営を改善し効率化を図るため、下記を実行します。

#### 《業務プロセス改革》

システムを導入することによる業務プロセスの改善・効率化

[財務部門] 伝票のペーパーレス化、予実管理

[稟議事項] 回議書の電子化、承認プロセスの簡易化・効率化

[就業管理] 勤怠管理の簡易化・効率化、管理の徹底化

→システム導入については、「8) ICT 環境整備」に関連記載があります。

#### 《制度改革》

2019年度に着手した下記事項について、その定着を図り、必要に応じて効果測定を行い、改善しながら運用していきます。

[目標管理制度] 課題解決型 PDCA への変更、効果的・効率的運用

[人事制度改革] 人事制度委員会導入による公平性・透明性の確保

#### 《人財の確保と育成》

組織・制度面での大学改革に併せて、大学職員の仕事範囲や役割も変化しています。特定分野においては専門的人材の配置の必要も出てきています。こうした状況に対応すべく、下記事項を実施します。

[中長期的視点に立脚した採用計画の実施]

若手職員の継続採用と合わせ、必要に応じた中途採用を実施する

[職員キャリアプラン制度の構築]

本学における職務経験や研修を通じ、能力を高め、必要な人材や専門的人材の育成を目的としたキャリアプラン制度を構築する。職員一人一人が自身のキャリアの積み重ねを実感することで、働くことへのモチベーションを上げ、また、異動によって新たな能力を身に付け、更なる専門性の向上を図る

[人財の確保・育成]

中長期的視点に立った計画的な採用を実施し、職員の能力やモチベーションを高めるキャリアプラン制度を導入することにより、専門性の高い業務に関する「人財」を確保し、業務に役立つ研修や派遣等も援用して人材の育成を図る

### 7) 施設環境整備

施設環境整備は、学生のよりよい学習環境作りを目的に下記施策を実行します。音楽大学の中核となる質の高い音響設備である練習室やスタジオの整備を始め、学生の活力の元となる食堂の改善も行います。

#### ① ミュージカル練習室、練習室の整備

学生が演奏など音楽練習に集中できるよう練習室の整備を進めます。また、練習室の予約については、施設予約システムを整備し、学生にとって利便性があり、かつ事務局が管理のしやすいものとしします。

→練習室の予約については、「8) ICT 環境整備」に関連記載があります。

#### ②6号館の整備（録音スタジオ、空調設備など）

録音スタジオは、その利活用も考慮に入れた整備を行います。

→録音スタジオの利活用は、「8) ICT 環境整備」と「10) 広報活動強化」に関連記載があります。

#### ③食堂サービスの改善

食堂については、下記「くにおんごはんステートメント」を制定し、順次改善を進めていきます。改善を進めていく中で、食堂に対するアンケート調査を実施するなど、利用者の意見も取り入れながら運営していきます。

1. 国立音楽大学では、国内外の幅広い分野で活躍する音楽文化人を育成するため、心身の健康に配慮した食事を、衛生的な空間で提供する。
2. 栄養バランスの良い食事の選択がしやすい環境を整え、学内の食環境整備を推進する。
3. 本学の学生及び教職員の食生活と食文化を向上させる取り組みを教育環境整備の一環として積極的に行う。

その他、附属中高2号館を高大連携の音楽教育の場として建設します。

### 8) ICT 環境整備

ICTの進歩は目覚ましく、大学でも教育や研究、事務作業におけるICTの最適化と情報ガバナンスの推進は今や必然の環境整備となっています。本学では、3つのポイントに絞ってICT環境整備を実施します。

#### 《ネットワークインフラの整備》

まずは大学における学内LANの構築を行い、順次附属校も含めたネットワークインフラを整備していきます。ネットワークのインフラ整備にあたっては、併せて情報セキュリティの強化も進めます。

#### 《学生のICT環境の整備》

ネットワークインフラ構築後、学生のICT環境の利便性を高める下記を行います。

##### ①Wi-Fi環境の整備

##### ②モバイルアクセスの改善

##### ③充電電源設備の整備

##### ④教育用PC、録音施設等の環境整備

→録音スタジオについては、「7) 施設環境整備」に関連記載があります。

##### ⑤ICT教育プログラムの充実

録音スタジオ等を活用した演奏の録音や発信の仕方などに関する教育プログラムを検討します。

##### ⑥施設予約システム等の整備

→練習室の予約については、「7) 施設環境整備」に関連記載があります。



#### 《事務局業務における ICT 活用の促進》

システム導入による事務局業務の改善と効率化については、「6) 管理・運営」に記載した通りです。

#### 9) 新たな財源の確保

本学の財政安定化のため、寄付金募集活動を一歩進め更に積極的に行っていきます。音楽・芸術に造詣のある方、深い関心のある方、音楽教育に支援を下さる方など、新たな寄付者や支援企業を見出し、音楽を通じた関係性を構築、価値観を共有することで互いがプラスと評価できる形を目指します。

寄付金は、今後「くにおん基金」創設のもと、クラウドファンディング利用も視野に入れ、寄付者がアクセスしやすい環境作りをしていきます。

寄付者、支援企業に対しては、上述「2)演奏芸術の振興」で実施する演奏活動による還元など、本学のリソースを十分に生かしたコンテンツを用意する予定です。

#### 10) 広報活動

広報活動は上記 1)から 9)の全てに関係する重要な活動です。全学的・俯瞰的に全体を眺めながら、今年度は特に下記 3つのキーワードのもと、積極的な活動を行っていきます。いずれも入学者や関連調査等の結果に基づき、社会のニーズを把握するとともに、本学の魅力と掛け合わせた時に、どのような広報活動を展開すれば訴求力があるか、を検討し実施していきます。

#### 《What～ブランディング広報》

「くにおん value」の明確化とその発信

- ①教育の特徴：基礎・専門コース制、アンサンブル制
- ②社会で活躍する教授陣による実践的教育
- ③活躍する卒業生たち
- ④歴史と伝統
- ⑤伸び伸びとした校風、緑豊かな環境
- ⑥奨学金制度・国際交流

#### 《How～広報手段の充実》

入学者等各種調査に基づき、有効な広報チャンネルの多角化・拡充・深化を図ります。

- ①Web、SNS と生の声のコラボレーション
- ②活躍する卒業生の姿の発信
- ③在学生、卒業生主体の演奏発信（「くにおんチャンネル」）  
→③在学生、卒業生主体の演奏発信（録音スタジオの利活用）は、「7) 施設環境整備」と「8) ICT 環境整備」に関連記載があります。

#### 《募集活動の強化》

入学者等各種調査に基づき、有効と考えられる募集活動を積極的に行います。

- ①教員との連携を強化し連帯活動を行う

- ②附属校との連携を更に強化し、一貫教育を促進する
  - ③高校教員やレスナーとの関係を強化し応援団になってもらう
  - ④ジュニア育成の取り組みを促進する
- ジュニア育成については、「4」「くにおんアカデミー」の充実」に関連記載があります。

## 11) 学校間連携

大学と附属校の連携を強化することにより、附属校の音楽教育内容の充実を図るとともに、将来的には飛び級や単位付与などの制度改革も視野に入れ、高大連携と高大連携だからこそできる制度改革を推進します。今年度の実施項目は下記の通りです。

### 《高大連携と制度改革》

- ①大学教員による指導
- ②大学生による学習支援
- ③大学の公開講座授業への参加
- ④高大連携に関するFD研修

### 《附属幼稚園プログラム改革》

- ①小学校との交流・連携プログラム
- ②音楽教育をキーワードにした教員交流・研修

### 《附属小学校プログラム改革》

- ①教科横断学習
- ②金管楽器学習
- ③幼稚園との交流・連携プログラム
- ③教員交流・研修

### 《附属中高教育プログラム改革》

- ①音楽科：2コース制化、レベルごとの学習内容
- ②普通科：英語教育の充実、教員研修
- ③中学校：音楽準備プログラム、文理の内容見直し

### 《音楽・語学等の一環教育》

音楽と語学を中心とした幼稚園から大学・大学院までの一貫教育を推進します。

### 《連携授業と教員交流・研修》

附属学校間の連携授業を推進し、教員同士の交流を活発化すると同時に研修の機会を充実させます。

## 大学院

これまで以上に大学と大学院の連携教育体制を整備し、キャリア支援も見据えた音楽人育成というビジョンを推進していきます。根本的な理念は大学と同じであり、その発展的教育機関として大学院を位置付けます。

## 附属中学校・高等学校

附属中学校・高等学校における 2020 年度事業計画は下記の通りです。

### 1) 国立音楽大学と附属中学校・高等学校の連携強化

音・音楽に携わる多種多様な分野で活躍できる人材を世に送り出している国立音楽大学の教員との密接な対話を通し、中学・高校と連携可能な音大の専修やコースを見極め、早期教育内容をどのように構築していくか、「新コースプロジェクトチーム」を立ち上げ検討に入ります。ソルフェージュ、ハーモニー、作曲といった音楽の授業に、国立音楽大学の音楽教員 4 名を配置し、高大一貫教育の在り方を検討していきます。

### 2) 新たな英語教育の推進

オンライン英会話を導入することにより更に実践的な英語教育を行います。

### 3) 音楽以外の進路を目指す生徒たちのための独自教育

中学校の文理コース、高校普通科の総合進学コース・特別進学コースでは、生徒一人ひとりの進路希望に沿った個別指導を行うだけでなく、教員の指導力を強化することで更に充実させていきます。

また、音楽に興味を持ち将来音楽大学に進みたいと考える生徒たちを、ミュージックアトリエで受け入れて、音楽指導を行っています。

### 4) 多様な講座の実施

音楽科を 2 コース制にするための準備段階として、多様な講座を実施し、幅広い音楽教育のプログラムを検討します。

### 5) プログラム、コースの見直し

中学校入学者増を目的とし、音楽準備プログラム、文理コースの内容を見直します。

### 6) 附属小学校・附属幼稚園との連携強化

幼稚園から大学院までの教職員間の対話や情報交換を更に活発化し、相互理解を推進します。大学で実施している七夕祭や、小学校や幼稚園実施の様々な行事への参加を通じて、幼児教育に対する理解が深まり、また、音大の幼児教育に興味を持つ生徒も近年増えている傾向にあります。

### 7) 国際交流事業・短期海外留学の推進

国際交流事業としては、クラシック音楽教育の体験を目的とし、オーストリア・リンツ音楽高校へ3カ月の短期留学生を毎年派遣しています。また英語教育の一環とし、今年度新たにオーストラリア・ブリスベンの St.Aidan's 校と3カ月の短期留学プログラムの姉妹校提携を結び短期海外留学を推進します。

その他、まだ国外に渡航経験がない多くの生徒たちに海外への渡航の機会を設け、国際交流を実践するため、今年度は音楽科2年生の台湾への修学旅行を実施します。この旅の途中、大成中学校との交流会も企画されています。

#### 8) オリンピック・パラリンピック参加国国家研究プロジェクト

2018年度からオリンピック・パラリンピック参加国国家研究プロジェクトとして、3年間に渡り、参加各国の国家を合唱したDVDを各大使館に送り届けています。

#### 9) 地域交流の推進

国立市および国立駅周辺の各商店会の他、nonowa 国立や近隣病院でコンサート等を積極的に行い、地域貢献活動に力を入れています。地域の方々・団体などからの演奏依頼にできるだけ応え、音楽の魅力をアピールし、KUNION の名を広めていきます。

#### 10) 演奏会の開催

これまでに引き続き、「くにたち音楽会」「オーケストラ定期演奏会」「ソリストコンサート」「新入生歓迎演奏会」「卒業演奏会」等、魅力あるプログラムを開催します。

#### 11) 施設設備の改善

衛生面を考慮し、1号館トイレと水飲み場を改善します。また、学習環境をより快適にするため、3号館空調機器を更新します。

#### 12) 広報活動

ホームページのコンテンツを更に充実させます。また、学校説明会やオープンスクール、学校訪問、塾対象説明会等では、よりわかりやすく親しみを持ってもらえるよう新たな企画も盛り込み、明るい学校をアピールします。

その他、「KUNION 講座」「くにたち de スタート」「ミュージックアトリエ」等で音楽の魅力を伝えます。更に、昨年度から東京近郊で開催されている国立音楽大学の進学ガイダンスに附属中学校・高等学校の相談窓口を併設し、広報活動を行っています。

## 附属小学校

### 【はじめに】

附属小学校では、現在の教育目標を改めて見直すことで、音小の6年間の学びを通じてどのような子供に育つのか、またこの期間で何を達成することができたのか、を明確にしていきます。そうすることで、音小が生み出してきた子供たちの姿を端的に表現できるフレーズを教育目標として提示し、2021年度からその目標に沿って、授業や行事を検討・配置していきます。音小での6年間の学びを体現する教育目標をフレーズという形で明確に示すことで、本学への受験を考える層に対する訴求力が高まると考えます。また日本で唯一の音楽大学の附属小学校という特徴を生かしつつ、他校との差別化を図る特色を打ち出すため、広報科と積極的に連携し活動を行っていきます。

以下、具体的な事業計画を説明します。

### 1) 教育内容の充実

教育内容を充実させるため、下記施策を行います。

#### ①校内研究

音楽や造形など特色ある授業により、「豊かな感性を育むこと」を基本とした実践活動を継続します。また、「音楽が支える学力」と教科を超えるコラボレーション授業の研究・実践を継続します。こうしたコラボレーション授業は、児童の主体性や対話能力などを刺激し、より深い学びに発展するよう構築します。2020年度は、これまで行ってきた教科間のコラボレーションを更に進展させ、「海」を共通テーマとし、リトミック、音楽、造形の授業連携で実現する学習、表現、発表を行っていきます。また、研究科でも「音楽が支える学力」と他教科のコラボレーションについて研究を深めていきます。

#### ②基礎学力の向上

学習面では、充実した言語活動を通じ、知識や技能の活用を図る学習や、自ら進んで行う探求活動・問題解決学習を重視し、2019年度に引き続き実施してまいります。現在も、フィールドワークや取材を行い、その活動について纏めたものを発表するといった自主性を重んじた活動を行っています。そうした発表は表現力を発揮する場となり、それを更に発展させ、壁新聞やプレゼンテーションでも表現することで、より深い表現方法となるよう研究、工夫を続けます。児童それぞれの個性や能力に適した指導を継続することで、「進んで考える力」と「学ぶ意欲」を高めるとともに、基礎学力の定着を図ります。

#### ③宿泊行事

宿泊行事には、登山を積極的に取り入れています（2、3年生は名栗村正丸峠、4、5年生は日光白根山、6年生は菅平四阿山）。従来の登山遠足に加え、宿泊を伴う登山は、心身を鍛え、より大きな達成感を得ることができる行事として実施しているものです。また2019年度に引き続き、行事科では宿泊行事の集大成としての6年生の登山を再検討しています。このような学校行事全体の見直しにより、新たな教育目標が見出せる可能性もあり、発展的向上が見込まれる行事のあり方を検討することに繋がると考えています。

#### ④一貫教育の研究・学校関連携の推進

附属幼稚園、附属中学校、附属高等学校、大学との連携を推進します。一貫教育の観点から学校間の協力体制を研究します。既に実施されていることを検証することから始め、より効果的で魅力的なプログラムを構築していきます。少なくとも年1回は、各機関の授業や行事の見学、研修を行う日を設定し、教員間の交流を活発化出来るよう検討します。

### 2) 生活指導の徹底

生活指導については、以下の施策を行いその徹底に努めます。

#### ①心の教育

教師と子ども、そして、子ども同士の人間的な触れあいを大切にし、思いやりのある心を育みます。始業前や休み時間、放課後等のちょっとした空き時間も活用し、教師と子どもの触れあいを大切にしていきます。また、自分のことだけでなく相手のことも自分と同じように大切にできる子どもの育成を目指します。

#### ②規律ある生活

集団生活上のきまりや、登下校時における児童の安全と公共交通機関マナーなどについて、担任だけでなく、専科の教員も協働して指導を徹底します。児童の規律ある生活については、学校全体としてルールに対する共通認識を持つと同時に、その生活指導の内容を保護者に伝えることで指導の徹底を図ります。また通学指導についても、分掌に従い、効率的な運営を目指します。

### 3) 応募者増の広報活動

本校への入学希望者を増やすため、下記施策を行います。

#### ①広報活動

ホームページやスクールガイドを有効活用し、本校の特色である「豊かな感性を土台とした人間形成」が周知されるよう、広報活動を行っていきます。雑誌媒体への広告等もその費用対効果を検討した上で、効率的な広報活動になるよう検討していきます。また、幼児教室や音楽教室への訪問は、目的と対象を明確にすることで引き続き効率的に実施していきます。

#### ②入学者確保に向けた取り組み

入学者人数の確保については、これまでも本小学校の教育の特徴をうまく広報できていると思われる数値を維持しているため、今後もこの方向性を推進します。その他、学校説明会やスクールガイド、ホームページ、ホームページからの各イベントへの参加申し込み方法等、細やかに改革を実施してきた効果が上がっています。こうした実績をもとに、本小学校の特徴ある授業や児童の発表活動・表現活動を更に推進し、学校説明会や授業見学等で積極的に広報していきます。

### ③各種説明会

附属幼稚園保護者説明会（5月）、学校説明会（5・6・9月）、プレスクール（5・7・9月）、サマーコンサート（8月）、公開授業（6月）、ウィンターコンサートと造形作品展（12月）、陶芸絵付け体験会（1月）、中央線沿線合同相談会（2月）、幼児教室対象説明会、スプリングコンサート（3月）等を継続して実施します。土曜日は、稽古事や幼稚園行事が入っていることも多いため、日曜日に来校してもらえる工夫も進めます。プレスクール、公開授業も昨年度の開催回数を維持し、学校の魅力を伝えていきます。説明会については、プレゼンターの登場・退場のタイミングや参加者のキャッチアップ方法等、更に検討をし、より分かりやすい進行を工夫していきます。

### 4) その他

上記の他、課外レッスンに金管楽器アンサンブルを加えます。まず子供たちの金管楽器への興味を喚起していき、将来的には本学校における金管アンサンブル活動を盛んにします。こうした活動が子供たちの音楽に対する興味・関心を深めるとともに、音楽を志すモチベーションとなるようにします。

## 附属幼稚園

附属幼稚園における 2020 年度事業計画は下記の通りです。

### **【保育の質の向上】**

幼稚園は子どもに豊かな環境を準備し、その育ちを保障していく場であることは言うまでもありません。それと同時に、幼稚園は保護者の子育て支援も求められています。現在の子育て支援政策は、保護者の労働時間に合わせた保育日数や時間の長時間化、保護者が子育てに関与しなくても良いサービスの増加等、量的な保育ニーズの確保が主流であり、そこに、子どもの最善の利益という視点が抜け落ちていることは否めません。子育て支援の本来の意味は、子育て世代がこの国で子どもを育てることに喜びを感じられる支援となることです。子育てを通して保護者自身が一人の人間として育つことが子どもを幸せにし、そのような保護者の元で育った子どもは、子どもを育てる喜びを次世代へ繋げていくこととなります。

保育を考えると、子どもと保護者、そして教師が「共に育つ」ことが可能となる保育の「質」を担保し、その向上を目指します。

その具体的施策を下記に説明します。

### 1) 70 周年行事 “成長・連携・発信”

記念行事がイベントに終わるのでなく、記念行事を通し、子ども、保護者・教師の“即興性”、“受容・応答性”、“対話性”を高め、成長していくことを可能とする記念行事とすべく努めます。

2020 年 11 月 14 日（土）に、ジャズ奏者の山下洋輔さんを迎え、記念音楽の集い（演奏と子ども・保護者・教員によるセッション）を開催します。これに向け、ジャズや打楽器、リトミック等の大学教員と大学生を招き、様々なワークショップを開催していきます（2019 年 1 月より実施）。大学の施設、人材等のリソース（資源）を最大限に活用できることは、附属校ならではの利点であり強みになっています。音大附属だからこそできる取り組みであり、これらを実践研究としてまとめ、学会や研究紀要等で発表・発信していきます。

### 2) 教育や育ちの可視化 “教育への理解・発信・連携”

子ども自身、そして保護者や教員が、子どもの育ちを可視化したドキュメンテーション（写真と文章による記録）を作成し、2019 年度から掲示を始めました。これにより、子ども自身が自分や友達の変容を、そして保護者が幼稚園の教育内容や我が子の成長を、また教員は自身の遊びや生活への援助の在り方や子どもの育ち等を、視覚的に振り返ることができるようになりました。この活動の持つ教育上の意味を教員自身が気づき始めたことは大きな成果となっており、今後もこのドキュメンテーションを通して、教育や子どもの育ちの可視化を推進していきます。

現在も、保護者が園の様々な行事に参加・参観することで、本幼稚園の教育内容や我が子の育ちの理解となっていますが、行事への参加・参観だけでなく、日常の保育に参加する機会を増やすことも検討していきます。



### 3) 生活習慣の形成 “家庭との連携・外部人材の活用”

2020年1月に実施した保護者向け「幼稚園評価」の結果、子どもの生活習慣の形成（早寝早起き、排便、食事、挨拶など）が今後の課題として見えてきました。この課題解決のためには、家庭との連携が必須であり、保護者の意識を変えていくことが重要となります。保護者の意識変化を促すため、2019年度には、立川市の栄養士を招き、「栄養・食育」と題した講演会を開催しました。この講演会は、保護者にも教員にも大変好評でした。その実績から今年度は、国立市や立川市の保健師や栄養士、園医等を招いた講演会を実施していきます。

### 4) 研修・研究の充実

教員の日々の研鑽は教師としての義務であり、これまでも様々な研修会に参加しています。しかし、限られた時間や予算を効果的に使うためにも、参加する研修会を精選し、教師の豊かな学びにつなげていきます。2019年度は、都内や県外の保育施設での視察を行いました。保育環境や教師と子どもの関りを実際に見ることで、その後、教員が園内の環境を見直し、新たな環境を構成したり、子どもとの関りを変容させたりする等、座学の研修会では得られない効果をもたらしています。このことから今後も、意味のある研修を充実させていくと共に、1)に挙げましたが、大学教員との連携を通じた研究者としての視点を園内研修に取り入れた研究を行っていきます。

#### **【園児獲得に向けて】**

園児の獲得にあたっては、下記施策を行います。

#### 1) プレ幼稚園の拡大 “早期獲得と子育て支援”

未就園児（3歳未満）向けのプレ幼稚園を、これまで月に2回、その都度募集し13名の親子（親子で26名）を受け入れてきました。今年度からは、プレ幼稚園を次年度の入園につなげること及びカリキュラムの充実のため、固定募集（前期、後期）とし、20～25名（親子で40～50名）の親子を受け入れることにします。人数増に伴い、担当者を現在の非常勤講師（プレ幼稚園担当）に加え、人員（アルバイト：音大・幼教卒業の卒園児保護者）を増やし対応していきます。また、現在は20～25名（親子で40～50名）を受け入れる保育室がないため、代わりに遊戯室を利用します。園児獲得に向け、安全で保育の質を担保する環境整備・工夫を早急の検討事項とします。

#### 2) 広報活動の充実 “ホームページの充実”

子育て世代の保護者は、ネットを通じた情報収集に慣れていることから、幼稚園の宣伝についてもネットを活用することは必須となります。よりわかりやすく親しみやすい、魅力的なホームページにするため、教員だけでなく保護者のアイデアや意見も取り込んでいきます。2019年度、ホームページに対する保護者の要望に応え、「保護者の声」欄を作り、大変好評でした。在園、卒園児の保護者が幼稚園に心を寄せ、当事者としてこれからの幼稚園を共に考え、より良い幼稚園を実現させていくために、従来の口コミに加え、ホームページの充実を始めとしたネットを活用した広報を推進していきます。

### 【附属小学校への入学者増に向けて“連携強化とPR”】

附属小学校への入学者増に向けた“連携強化とPR”は、複数年度に渡っての事業計画ですが、引き続きの施策として改めて挙げておきます。2019年度の年長児の附属小への進学者は16人で、全体の52%と好ましい結果となりました。ただ、音小への進学率は、その年度の兄弟関係や保護者の関係性などが大きく影響します。しかし、附属ならではの一貫教育の利点をアピールしていくことにより、附属小への進学率を上げていきます。

#### 1) 幼小の交流

昨年度、5年生と年長児の交流授業を2度行いました（1年生をお世話するのは主に6年生であることを鑑み、年長児と5年生で設定）。その際、引率者に保護者も加えることで、附属小の恵まれた施設を垣間見ることができ、教育内容の理解につながりました。今年度は5年生にとどまらず、1年生との交流も計画しており、幼小連携の課題でもある、学校間の段差を緩やかにし学びや生活の連続性を考え、実施していきます。それにより、教員が互いの教育内容を理解すると共に、附属校の教員であるという意識の変化をもたらしていきます。

これらを積み重ねていくことで、複数年度に渡る計画に挙げた「音楽が支える学び」の一貫した教育課程の作成への第一歩となると考えています。

## 2. 施設の整備

施設整備の事業計画は下記の通りです。

- 1) これまで推進してきた魅力あるキャンパス整備計画の集大成として、大学に食堂及び学生ホール等の機能を有した7号館が2018年12月に完成しました。今後も魅力ある学校への改革施策として附属校も含めてキャンパス整備計画を推進する予定です。
- 2) 中高3号館の老朽化した空調設備改修は2020年度に実施します。
- 3) 大学6号館の老朽化した空調設備改修は2019年度に設計を行い、2020年度に完成予定です。
- 4) 附属中高2号館は老朽化対応として建替えを計画して2020年度に設計を行い、2021年度より建設工事を実施する予定です。

## 3. 財務基盤の充実と経営管理体制の強化

### 【はじめに】

経常収支の改善を目指す上から、納付金収入の増額に繋がる施策を積極的に取り組んでいきます。また、経常経費の支出削減に関する施策にも取り組んでいます。更に、寄付金や収益事業等の収入拡大に関しても施策を強化します。

財務基盤の充実と経営管理体制の強化に関する具体的な事業計画は下記の通りです。

### 1) 寄付金事業の推進

2017年度に立ち上げた7号館建設に伴う募金事業は2019年度で終了しているため、今年度に新たな寄付金募集を実施します。これまで継続して行っている奨学寄付金と共に展開します。

### 2) 収益事業部門からの繰入れ

収益事業部門の利益を学校法人へ繰り入れ、教育活動以外の収入確保を進めます。

### 3) 修繕、改修について

修繕、改修にあたっては、入札や相見積もりを厳格に行うことにより支出の削減に努めます。

## II 予算概要

### 1. 事業活動収支予算

#### 【はじめに】

事業活動収支予算は経常収支と特別収支に大別され、経常収支の内訳は教育活動収支と教育活動外収支に区分されています。事業活動収支は、学校法人の本業となる教育事業に関わる経常的な収支と、臨時的な収支に分かれている点が特徴と言えます。

#### 1) 教育活動収支

##### (収入内訳)

学生生徒納付金収入(学納金)36億900万円は、前年度予算額に比べ3600万円の増加が見込まれます。学納金の約80%を占める大学学部の学生数が前年度比で増加するのが主因です。18歳人口が減少する影響もあり、学生生徒数の確保は重要な課題ですので、進学ガイダンスを初めとする「くにたちプレカレッジ」の充実、推薦入試制度の拡充等を通じて新入生の増加に取り組んでいます。2020年度は大学学部の新入生数が前年度比で増加しました。

経常費等補助金は、大学の専任教員の減少に伴い前年度比で400万円減額が見込まれます。また雑収入は定年退職者の減少に伴い退職交付金が減り、前年度予算額に比べて3,700万円減額します。

##### (支出内訳)

教育活動支出の約56%を占める人件費は、2018年度まで10年間継続して毎年度減少してきました。2019年度は退職者数の増加により退職金が増額となり、前年度予算額と比べて微増いたしましたが、2020年度は前年度予算比で1,400万円減額します。

また、教育研究経費は教育施設改善のための施設修繕費の増額により前年予算額より2,500万円増加します。管理経費は、単年度項目としてPCB処分費用、システム導入費用等の計上により前年度予算額より1億8,100万円増額します。

以上の結果から、教育活動収支差額は10億1,100万円の支出超過となり、前年度予算比では支出超過額は1億9,400万円増加しています。

#### 2) 教育活動外収支

主な収入は受取利息ですが、預金金利はほぼ0%に近いレベルですが、一部の資金を利率の高い債券で運用することにより、前年度予算額に比べ約500万円増額を見込んでいます。

また、本学が運営する収益事業に利益が発生するので、これに基づき学校法人へ1,400万円の寄付をする計画です。

#### 3) 特別収支

主な収入は、楽器、図書等の現物寄付となります。

この結果、予備費を除外して考えると、経常収支差額と特別収支差額を合わせた基本金組入前当年度収支差額は、8億8,900万円の支出超過となります。基本金組入額は、大学6号館の空調改修や中高2号館建替工事の設計費などの新規組入項目により、6億1,800万円の組入額となります。また、基本金組入額を控除した当年度収支差額は15億700万円の支出超過となり、これに前年度繰越収支差額を加えた翌年度繰越収支差額は96億2100万円の支出超過になる見込です。

## 2. 資金収支予算

資金収支予算は、資金全体の出入りを示したものです。主な収入項目の、納付金収入や補助金収入は、事業活動収入の科目の金額と同じですが、事業活動収入には出てこない資産売却収入や、2020年度の収入となる前受金収入などで構成されています。また、支出項目は人件費、減価償却費を除く教育研究経費及び管理経費、施設関係や設備関係支出や、資産運用支出として新たな債券購入予算などが計上されています。

以上の結果、予備費10億円を全額使用した場合には、翌年度繰越支払資金は△9億7,900万円となり、前年予算額に比べて11億6,300万円減少する見込です。

以上